



筑波技術大学大学院技術科学研究科 情報アクセシビリティ専攻の概要



大学院の構成

- 技術科学研究科（修士課程2年）

情報アクセシビリティ専攻

- 障害者支援(聴覚障害)コース
- 障害者支援(視覚障害)コース
- 手話教育コース

産業技術学専攻（聴覚障害系）

- 情報科学コース
- システム工学コース
- 総合デザイン学コース

保健科学専攻（視覚障害系）

- 鍼灸学コース
- 理学療法学コース
- 情報システム学コース

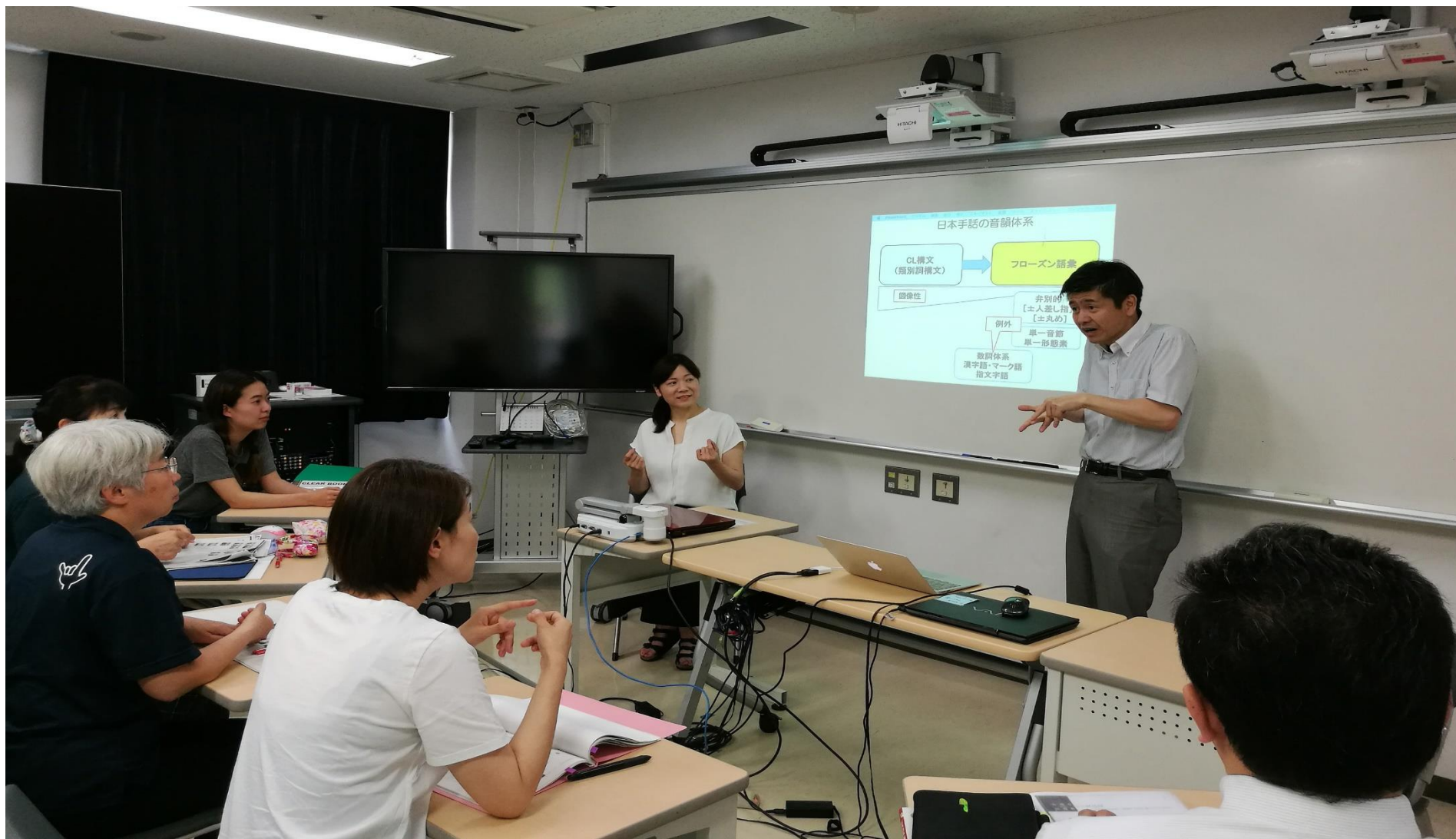
障害者支援(聴覚障害)コースの授業風景



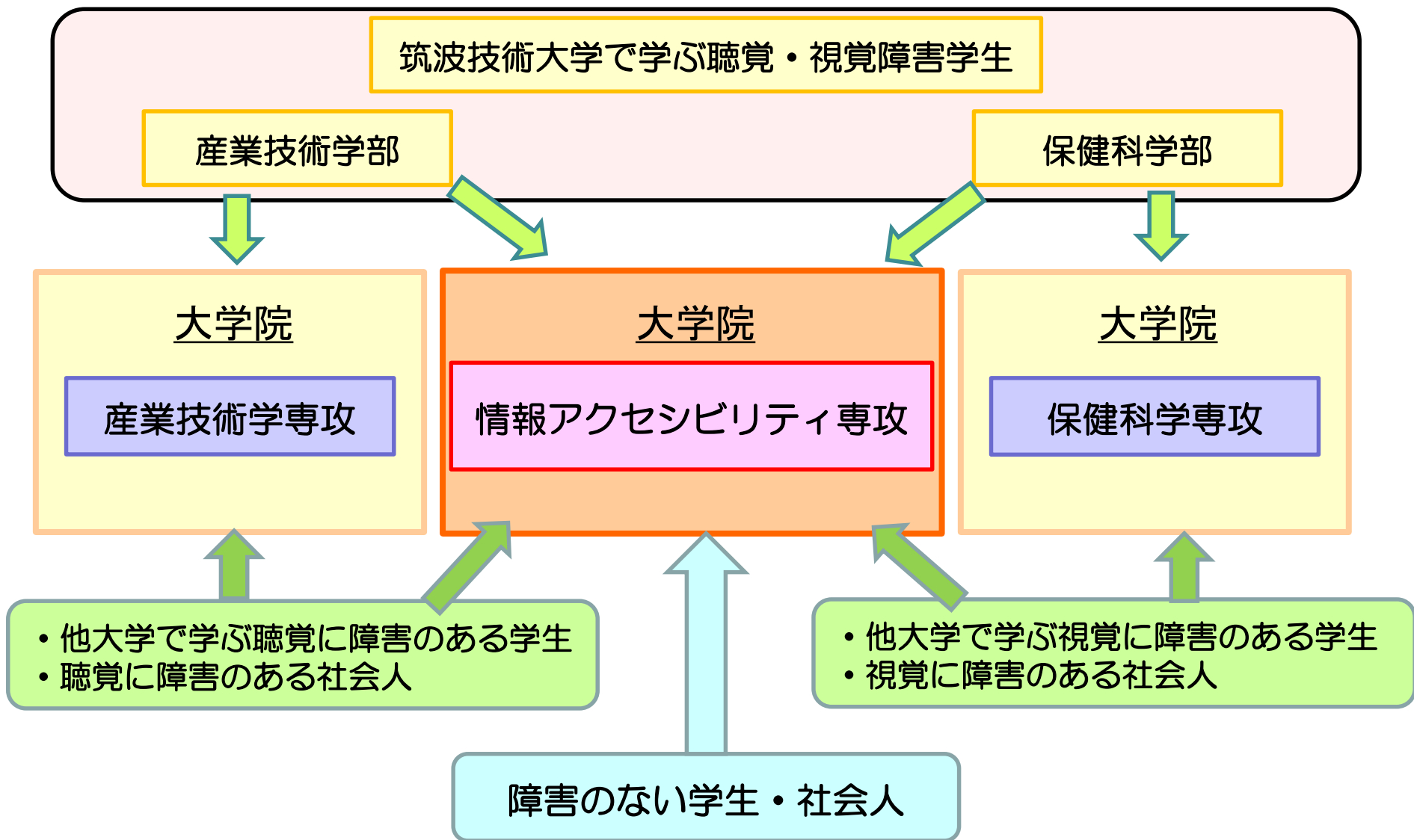
障害者支援(視覚障害)コースの授業風景



手話教育コースの授業風景



技術科学研究科の学生受け入れ



アドミッション・ポリシー

教育目標

障害者支援の中核的な役割を担いうる高度専門職業人および情報保障に関する教育・研究者を育成することを目標としています。

求める学生像

- 情報保障学を学ぶために必要な学力と障害に対する理解を有し、情報アクセシビリティを高めるために様々な工夫をし、知識を活用できる人
- 知的好奇心を持って未知なる課題や困難な問題に積極的に取り組み、問題を解決していく人
- 高度で専門的な知識や技術を持つ支援者、教育・研究者として、社会に積極的に参加し、共生社会の実現とその発展に貢献しようとする人

情報アクセシビリティ専攻の教育課程

	手話教育コース	障害者支援 (聴覚障害)コース	障害者支援 (視覚障害)コース
2 年 次	(論文審査・発表会) 情報アクセシビリティ 特別研究2 専門科目 (コース指定選択科目)	(論文審査・発表会) 情報アクセシビリティ 特別研究2 専門科目 (コース指定選択科目)	(論文審査・発表会) 情報アクセシビリティ 特別研究2 専門科目 (コース指定選択科目)
	専門科目 (共通選択科目)		
1 年 次	情報アクセシビリティ 特別研究1 専門科目 (コース指定選択科目)	情報アクセシビリティ 特別研究1 専門科目 (コース指定選択科目)	情報アクセシビリティ 特別研究1 専門科目 (コース指定選択科目)
	専門科目 (共通選択科目)		
基盤科目			

教育課程の編成と特色

- 必修科目
必ず履修しなければならない科目

- 選択科目
学生自らが計画し、自由に選択して履修する科目

		修了所要単位数	
基盤科目	情報アクセシビリティ研究特論1 (選択)	6単位以上 (「情報アクセシビリティ研究特論1」「情報アクセシビリティ研究特論2」から2単位以上を含む。)	
	情報アクセシビリティ研究特論2 (選択)		
聴覚障害リハビリテーション特論 (選択)			
視覚障害リハビリテーション特論 (選択)			
聴覚障害情報保障特論 (選択)			
視覚障害情報保障特論 (選択)			
専門科目	各コースの指定選択科目		14単位以上 (コース指定選択科目6単位以上を含む。)
	選択科目		
	特別研究科目	情報アクセシビリティ特別研究1	10単位
情報アクセシビリティ特別研究2			
合計		30単位以上	

- 基盤科目
「情報アクセシビリティ研究特論1」、「情報アクセシビリティ研究特論2」、「聴覚障害リハビリテーション特論」、「視覚障害リハビリテーション特論」、「聴覚障害情報保障特論」、「視覚障害情報保障特論」で、各種研究法や聴覚、視覚障害の基礎を学びます。
- 専門科目
各コースに指定選択科目があります。他のコースの科目も受講が可能です。

情報アクセシビリティ専攻履修モデル(例)

① 障害者支援（聴覚障害）コース

科目区分	授業科目の名称	選択 必修 の別	1年次		2年次		単 位 数	備考		
			1 学 期	2 学 期	1 学 期	2 学 期				
基盤科目	情報アクセシビリティ研究特論1	選択	○				2	6単位		
	聴覚障害リハビリテーション特論	選択	○				2			
	聴覚障害情報保障特論	選択	○				2			
専 門 科 目	コース 指定	聴覚障害教育特論	選択	○				2	14単位	
		聴覚障害情報保障システム特論	選択			○		2		
		聴覚障害コミュニケーション技術演習	選択		○			2		
	共通	障害学生支援コーディネート特論	選択		○			2		
		障害学生支援コーディネート実習1	選択	○				1		
		障害学生支援コーディネート実習2	選択		○			2		
		障害者就労支援特論	選択	○				2		
		障害者支援演習	選択				○	1		
	特別研究 科目	情報アクセシビリティ特別研究1	必修	○	○			4		10単位
		情報アクセシビリティ特別研究2	必修			○	○	6		
合計								30単位		

情報アクセシビリティ専攻履修モデル(例)

② 障害者支援（視覚障害）コース

科目区分	授業科目の名称	選択 必修 の別	1年次		2年次		単 位 数	備考	
			1 学 期	2 学 期	1 学 期	2 学 期			
基盤科目	情報アクセシビリティ研究特論2	選択		○			2	6単位	
	視覚障害リハビリテーション特論	選択	○				2		
	視覚障害情報保障特論	選択	○				2		
専 門 科 目	選 択 指 定 コ ー ス	視覚障害教育特論	選択			○	2	8 14単位	
		視覚障害情報保障システム特論	選択			○	2		
		点字・ロービジョンケア技術演習	選択		○		2		
		視覚障害アクセシビリティプログラミング特論	選択		○		2		
	共通	特別支援教育情報保障特論	選択	○			2		2
	他専攻 科目	障害補償機器特論	選択	○			2		4
		障害補償技術特論	選択			○	2		
特別研究 科目	情報アクセシビリティ特別研究1	必修	○	○			4	10単位	
	情報アクセシビリティ特別研究2	必修			○	○	6		
合計								30単位	

情報アクセシビリティ専攻履修モデル(例)

③ 手話教育コース

科目区分	授業科目の名称		選択 必修 の別	1年次		2年次		単 位 数	備考	
				1 学 期	2 学 期	1 学 期	2 学 期			
基盤科目	情報アクセシビリティ研究特論1		選択	○				2	6単位	
	聴覚障害リハビリテーション特論		選択	○				2		
	聴覚障害情報保障特論		選択	○				2		
専 門 科 目	選 択 科 目	コース 指定	手話言語学特論	選択	○			2	10	14単位
			手話言語学・教育演習	選択		○		2		
			ろう者学教育コンテンツ特論	選択		○		2		
			手話言語教育特論	選択			○	2		
			手話通訳特論	選択				○		
	他コース	聴覚障害コミュニケーション技術演習	選択		○			2	2	
共通	障害学生支援コーディネート特論	選択		○			2	2		
特別研究 科目	情報アクセシビリティ特別研究1		必修	○	○			4	10単位	
	情報アクセシビリティ特別研究2		必修			○	○	6		
合計									30単位	

課程修了について

修了要件

- 2年以上在学し、**30単位以上の修得**
 - 基盤科目：6単位以上
 - 専門科目：14単位以上（コース指定科目6単位以上）
 - 特別研究科目：10単位
 - 修士論文（審査・最終試験）
 - 最終発表会（2年次9月に中間発表会）
 - 審査委員会による口頭試問
- ※ 1年次の2月に研究デザイン発表会予定

授与される学位

修士（情報保障学）

授業について

- 大学院は、講義受講による専門領域の知識・技能の修得が主たる目的ではありません。学生自らが、問題意識を持って研究を行うことが求められます。
- 専門性の水準も学部に比べて高くなっています。
- 聴覚障害者に対しては、教員自らが手話及び音声を用いたり、手話通訳やパソコン要約筆記などによる情報保障を行ったりしています。視覚障害者に対しては、教材を点字、墨字の拡大文字、電子ファイルなどで用意しています。また、その他にも各教員が、授業の方法などで配慮しています。

研究テーマについて

研究テーマの決め方

① 希望するテーマを持っている場合

そのテーマに該当する専門分野の教員と相談
(教員の連絡先は募集要項を参照)

② 希望する専門分野を持っている場合

その専門分野の教員と話し合い、
希望する分野に合わせたテーマを決める

③ 指導を受けたい教員がいる場合

当該教員と専門分野やテーマについて相談

※ 研究テーマの基準：学会発表が可能な水準

令和5年度入試の日程

募集人員

	募集人員	備 考
第1回入学試験	5名	社会人入試若干名の募集を含む
第2回入学試験	若干名	社会人入試若干名の募集を含む

※各コースには募集定員はありません。

※第1回入学試験で合格にならなかった場合でも、第2回入学試験に出願することができます。

入試日程

第1回

出願期間 令和4年8月17日(水)～8月23日(火)

試験実施日 令和4年9月3日(土)

合格発表日 令和4年9月9日(金)

第2回

出願期間 令和5年1月4日(水)～1月11日(水)

試験実施日 令和5年1月21日(土)

合格発表日 令和5年1月27日(金)

選抜方法及び試験日程

一般入試

試験日程	第1回入学試験	第2回入学試験
	9月3日(土)	1月21日(土)

選抜方法(第1回、第2回共通)		
科目	書類審査 (100点)	適性検査 (400点)
時間		10:00~17:00
内容	提出書類を総合的に評価します。	プレゼンテーションを参考に専門的事項について口頭試問を行います。 研究意欲、適性、人物等について面接を行います。

- 書類審査と適性検査の結果を総合的に判定し、合格者を決定します。
- 適性検査は、口頭試問と面接を日本語（手話・板書併用可）で実施します。
- 手話教育コース志望者については、手話による口頭試問と面接を含めます。

選抜方法及び試験日程

社会人入試

試験日程	第1回入学試験	第2回入学試験
	9月3日(土)	1月21日(土)

	選抜方法(共通)
科目	適性検査 (500点)
時間	10:00~17:00
内容	プレゼンテーションを参考に専門的事項について口頭試問を行います。 研究意欲、適性、人物等について面接を行います。

- 適性検査の結果を総合的に判定し、合格者を決定します。
- 適性検査は、口頭試問と面接を日本語（手話・板書併用可）で実施します。
- 手話教育コース志望者については、手話による口頭試問と面接を含めます。

入学手続き

(1) 入学手続き期間

	入学手続き書類発送予定	入学手続き期間
第1回入学試験	令和4年12月上旬	令和4年12月8日(木) ~12月15日(木)
第2回入学試験	令和5年1月下旬	令和5年2月1日(水) ~2月8日(水)

(2) 入学手続き方法

郵送とします。

(3) 入学手続きに必要なもの

入学料 282,000円

※ 入学手続き完了者が、令和5年3月31日までに入学を
辞退した場合でも、入学料は返還いたしません。

(4) 授業料

入学後に納付（4月と10月の2回に分けて）

年額 535,800円（改定が行われる場合もある）

受験に向けて

- 各コースについて説明を受ける（個別相談を含む）
- 希望する指導教員と研究テーマなどをよく相談すること
- 卒業研究などにしっかりと取り組むこと（3年次以下の者は、4年次の卒業研究で何を選ぶのかをよく考えること）
- 口頭試問のプレゼンテーションの準備（希望する指導教員ともよく相談する）

FAQ

Q.事情があって、2年で修業することが難しいのですが、修業年限を延ばすことは可能ですか。可能な場合の授業料はどのようになりますか。

A.入学手続き時に長期履修の制度を利用した修業年限の延長申請を行い、承認された場合は修業年限を3年に延長することができます。修業期間の延長申請には条件などがありますので、出願の前にご相談いただくことをお勧めします。

修業期間が3年に延長された場合の授業料については、2年間分の授業料総額を3で除した額を1年間の授業料額とし、3年間で納めていただく授業料総額が同額となるように調整します。

Q.手話教育コースの授業を受けるために必要な手話コミュニケーションの力はどの程度でしょうか？

A.本コースの特性上、学術研究のために「手話コミュニケーションの可能な者」という条件を設けています。聴力障害の有無や程度に関わらず、全国手話検定1級レベル相当の力が望まれます。

FAQ

Q.授業料の免除はどのような場合に認められますか。

A.経済的理由等による授業料免除のほか，成績優秀者等や社会人入試入学者などに対する授業料免除の制度があります。例えば，経済的理由により授業料の納付が困難であり，かつ学業成績が優秀な場合に授業料が全額または一部免除されることがあります。

Q.研究に対する経済的な支援はあるのでしょうか。

A.研究に関連した活動（学会参加やアンケート実施など）に係る経費やコピー代，消耗品購入などの経費について支援があります。

Q.研究室に占有のデスク等がありますか。

A.各専攻によって大きさ等は多少異なりますが，院生研究室があります。室内には院生一人一人のデスクに加え，共有で利用できる設備があります。

Q.学生寄宿舍に大学院生も入居できますか？

A.入居できます。新入生は優先しますが，空室の状況，入居希望者の障害の程度及び経済状況等を総合的に判断し，入居者を決定します。

FAQ

Q.修士課程修了後の進路を教えてください。

A. 修了者は、視覚障害関係の社会福祉法人の指導員や、大学の障害学生支援コーディネーターなどになっています。地元銀行に勤務しながら修了した者は、障害のあるカスタマーや高齢者対応の専門家として活躍しています。

Q.現行の研究テーマはどのようなものがありますか？

A.以下のようなテーマがあります。

障害者支援(聴覚障害)コース

- 高等教育機関における障害学生支援組織のコミュニティ・エンパワメントに関する研究
- 聴覚障がい者の双方向コミュニケーションにおける最適な表出手段に関する研究開発
- ライフストーリーに見る聴覚障害学生の支援—高等教育機関における支援に焦点をあてて—

障害者支援(視覚障害)コース

- 大学の情報処理分野授業における視覚障害学生に対する合理的配慮に関する研究

手話教育コース

- 未就学ろう者の手話言語性に関する調査研究

最後に

- 大学院は、**自らが選択する進路**です。
- 大学院は**研究方法を学び、研究し、発信する場**です。

☆ 将来の自分をイメージしながら、
研究テーマを良く考えてください！

☆ 必要ならば、指導を希望する教員
と連絡を取って**相談**して下さい。